

Interview 毎熊 克哉

目で演じた「偽りの半世紀」 連続爆破テロ・逃亡犯の人生を映画化

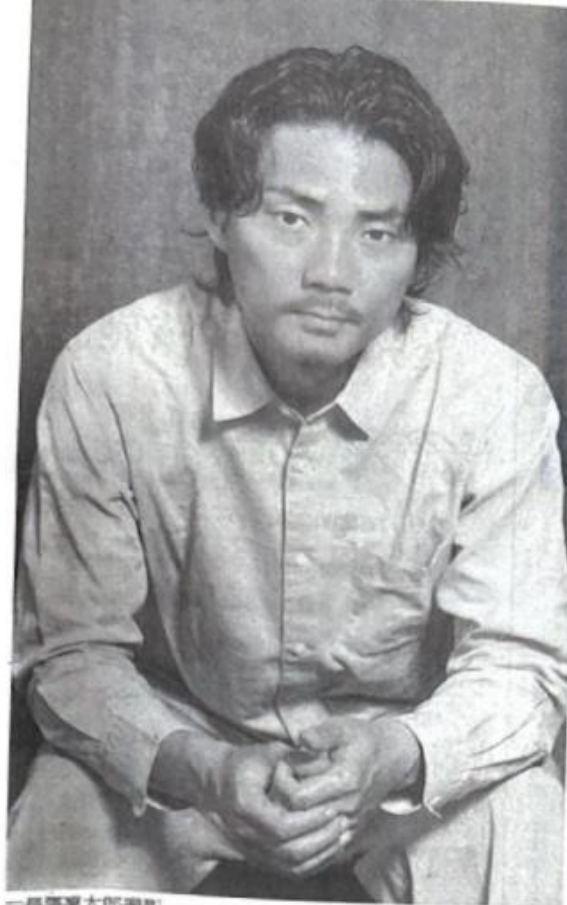
疑心がにじむその目は、友人と笑っていても焦点が定まらない。かと思えば、社会の不条理を前にした瞬間、真つすくな怒りを宿す。

「目」だという。
「桐島聡を名乗る男性が、神奈川県川崎の病院に入院している」。2024年1月末、衝撃的なニュースが駆け巡った。

「桐島の心には、いろんなものが混ざり合っている。その複雑さは、目の奥でしか表現できない」
毎熊克哉が主演する映画「桐島聡です」（高橋伴明監督）が、7月4日から公開される。主人公は半世紀にわたる逃亡生活の末に亡くなった連続爆破テロ犯、桐島聡。毎熊がこたわったのは、その

「桐島聡容疑者は、何を思っている50年の時間を生きたのか」「桐島聡です」では史実にフィクションを交え、その「偽りの日々」に

迫る。
物語は、高度経済成長期の70年代から始まる。反帝国主義や反植民地主義を掲げる「東アジア反日武装戦線」に共鳴した大学生、桐島聡（毎熊）は、海外進出企業を敵視。組織内のグループ「さそり」の一員として、複数の建設会社の爆破事件に関与する。追われる身となった桐島は「内田洋」と名乗り、逃亡先の神奈川県で住み込みの職を得る。



＝長澤寛太郎撮影



『桐島聡です』の一場面＝北の丸プロダクション

規則正しい生活を送り、勤務態度は真面目。上司からの信頼も厚い。「うーん」の愛称で親しまれ、友人も多い。だが、爆破事件の夢にうなされ、捜査の手におひえる桐島の日常は、平穏とはほど遠い。

「どう見ても普通の青年なのに、なぜ凶悪犯と並んでいるんだろう。指名手配のポスターでひととき目立つ黒縁メガネの男に、毎熊は子どもの頃から違和感を抱いていたという。事件は知らないが、顔と名前が一致する不思議な存在。資料は少なかつたが役のイメージは自然と膨らんでいった。劇中、桐島が一度だけ「素顔」を見せる瞬間がある。行きつけのライブハウスで歌手、キーナ（北香那）が歌う。故・桐島英五の代表作「時代おくれ」を耳にした時だ。

「俺の顔は何だったんだろう」と、今の自分と重なったん

でしようね。罪の意識だったり、かつての仲間が捕まって自分だけが逃げていくことへの負い目だったり。今にも泣き出しそうな表情で、店を飛び出す桐島。「感動していることを認めたくない。けど、彼女の歌声が心に無断で入ってきたんだと思います」

桐島はキーナに思いを寄せ、いつか2人は相思相愛になる。だが、桐島は彼女を拒絶する。「彼女との関わりでは自分自身でいられた。本当のことを話そうと頭によぎりもしたと思う。でも、迷惑をかけたくなかった」。逃げ続けたという気持ちと、本当のことを話して偽りの生活から解放されたいという気持ち。相反する二つの気持ちを胸に、撮影に臨んだという。

暴力は許されないという大前提はあれど、作品からは桐島へのあたる種の共感が感じられる。同じ時代を生きてきた高橋監督は、本作を「青春映画」と評したという。毎熊自身も「時代の空気や偶然の出会いで、本来とは違う道を歩んでしまったのではないか」。

そんなふうに桐島容疑者を捉えている。「事件にフォーカスを当てなければ、何の愛憎もない人だったのではないだろうか」
排外主義がはびこる現代への警鐘も、作品には込められている。例えば、外国人労働者に対し差別発言をした若者に、桐島が激昂するシーンがそうだ。毎熊は自らに

置き換え、「自分が70歳になった時に、ハラスメントの問題がなおざりのままの映画界だとすれば、若い世代に対して『変えられずこめん』と申し訳なく思うはず」と話す。「桐島も目指した社会になつていないことを、さみしく感じたんじゃないかな」

暴力を嫌い、親切な人物として描かれる桐島だが、決して「善人」には見られないよう演じたという。「結果的に人を傷つけていますから。正義感が人一倍強いわけではなく、普通の人間が罪を犯したというのが肝。もし本人に会えたなら、『なぜ?』と聞いてみたかったですね」

孤独な逃亡生活を終える直前、劇中の桐島も、病床で本名をつぶやく。どんな思いを込め、演じたのか。問いかけると、毎熊は少し間を置いて答えた。「うそをついた悲しみや、周囲に本当の事を言えなかった後悔。いろんな思いが頭にあっただけ。だからこそ、あえて何も考えず『桐島聡です』と名前を答えただけにしました。それが一番しっくりきたんです」

そして、こう続けた。「『桐島聡です』っていい人だったんだろうね」とかじやなくて、なんでこの人生だったのか。彼が、彼らが、理想とした日本には多分なっていないでしよう。この映画を見終わった後、そんなふうに桐島の50年に想像を巡らしてほしいですね」

東京・新宿武蔵野館、大阪・第七芸術劇場（7月5日公開）ほか。

【谷口豪】